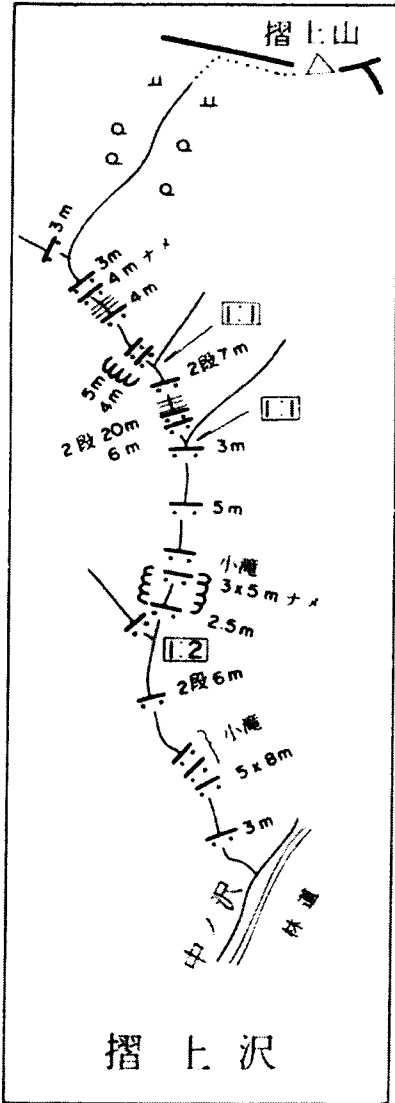


ぐ小滝が連続するようになる。そこを過ぎると、平凡な河原状となった。やがて滝となつて二俣に出る。この先は小さなゴルジュを形成し、出口にはナメ滝と小滝をかかえる。滝を二つ越えたと二俣となり、滝のある左俣に入る。右俣は平凡な河原状である。

左俣には次々と滝がかかるが、いずれも楽に越せる。源頭部まで続くナメを進み、草付を登りつめると、摺上山東方の稜線に出る。摺上山へ



はヤブこぎで一〇分程であった。

摺上山山頂には、シヤクナゲが

群棲していた。(記、シラネ、

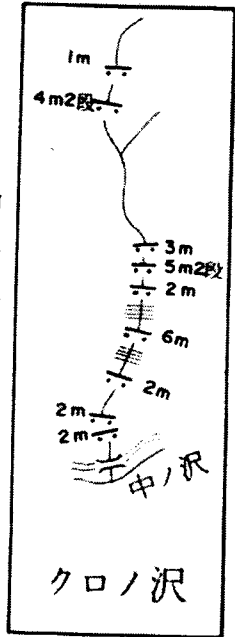
「タイム」 出合(六:五五) ↓二

俣(七:三五) ↓尾根(九:〇〇) ↓

## クロノ沢

一九八四年七月二日

中ノ沢林道からクロノ沢出合めざして下り、出合でワラジをつける。



遡行をはじめて一五分程で六はトイ状の滝。水量少なく、楽に直登できる。

このあとしばらく小滝が続いたが、左にカーブしたあたりから平凡な沢となった。ゴルジュといえるようなものはないが、兩岸ともヤブが深く、暗い沢であった。

七時四五分、二俣。左俣がヤブで隠されているため、右俣に行きそう



クロノ沢はナメ床が続いた

になる。小さなルンゼ状になっている。右俣へ二、三步踏み出してから戻り、左俣へ入る。水量はかなり少なくなり、兩岸ともヤブ多く、歩きにくい。

八時一〇分、水流なくなる。岩の下から湧水のようにになっているのを確認し、四〇分程ヤブをこいで、尾根に出る。  
(記：...)

「タイム」 クロノ出合(六：五〇) ↓

二俣(七：四五) ↓ 源頭(八：一〇)

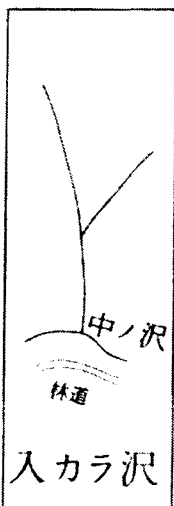
↓ 尾根(八：五〇)

## 入カラ沢

一九八五年六月三〇日

午後から友人の結婚式に出席する都合で、短い沢をねらって入る。出合の感じは何も無さそう。

身仕度を整えて遡行開始。沢は名前の通り、入ってすぐに溜れてしまふ。一五分も登ると、ヤブがかぶさり、遡行不能となってしまう。尾根を乗り越えてガラ沢を下降するつもりであったが、そのまま登ってきた沢を下降する。  
(記：...)



「タイム」 入カラ沢出合(八：五五)  
↓ 遡行終了(九：一〇)